

著書紹介

「神風（シンパラム）がわく韓国（くに）」（吉川良三著：白日社）

著者の吉川良三氏（JKIT 会長）が、1994 年からサムスン電子の常務として韓国に滞在した時の体験をもとに、韓国と日本の文化やビジネス慣習の違いをまとめた書であり、日韓間のビジネスに関わる人にとって、韓国の文化や日常を知る上で、参考になる指摘と考え、シリーズで要約をご紹介します。

（注）（本著は、韓国が IMF 危機を乗り越え、新たな成長を始めた時期に執筆されたものであり、その後の発展のなかで解消していることがあるかもしれないことをお断りしておきます）

<第2回>韓国病とは何か

数多く出版されている韓国に関する書物が取り上げている「韓国病」について、著者は

- ・「文化の影響からくる病」
- ・「急発展しつつある国に共通の必然的な病」
- ・「国際化時代を迎えたために病気と認定される病」

に分けて、分析をし、多くは日本が戦後の高度成長期に歩んできた道でもあると指摘している。

1. 文化の影響からくる病

真の病ではなく、気の病であり、韓国の文化をよく知らない日本人が、日本の文化を基準として、韓国人の考え方・行動様式を批判し、それを病気といっているようなケースが多い

(1)言葉だけで行動しない病

韓国人は、どんな時でも、場所でも、よく話をするが、相手の話を聞いていないところがあり、話の内容そのものよりも、相手に自己の存在感を誇示することを大事にする。

(2)日本人には答えられない質問

日本人ならば答えをあいまいにするような質問にも、韓国人は「あいまいさ」をきらい、「白か黒か」「イエスかノーか」をはっきりさせることを好む。

(3)利己主義という病

韓国の「個の文化」は、個人主義というよりは、会社よりも自分の利益のみを優先させる利己主義に近い。

(4)複雑な「ウリ」のニュアンス

韓国人がよく使う「ウリ」という言葉には、「われわれの」という「集団の文化」からきた意味と「私の」という利己主義を伴った「個の文化」からの意味がある。

(5)個人の身勝手と集団の身勝手

日本人からは、韓国人は個人個人が身勝手な病と見えるが、韓国人からは、日本人は、個人の利益よりも集団の利益を優先し、集団で身勝手な行動をとる病として見える。

(6)形式主義・権威主義という病

- ・韓国の社会では、権威をもっている者と、持っていない者の格差が天と地ほど違う。権威のない者は権威のある者に対して、絶対的に服従し、最大の礼をつくさねばならず、そのため、権威を手に入れるためには子供の頃から手段を選ばず努力をする
- ・権威、権力を持っている者はそれをいつでも、どこでも発揮したが、一方で、権威を伴っていない者は、権威があるように振る舞いたがる。

2. 経済の発展途上で起こる病

これにはモラルやマナーに関するものが多いが、かつて、日本もたどってきたように経済が発展し、国が豊かになれば、自然に治っていく病。

(1) 道徳不感症という病

経済が急成長した韓国では、たしかに物質的には豊かになったが、道徳不感症という病が蔓延している。

- ・並んで何かを購入する時に、縦に並ばず、横に並ぶというか勝手に周辺に待機する
- ・交通ルールを無視したバスの縦横無尽な運転
- ・「一般タクシー」における乗客の相乗り
- ・裏通りなど、見えない所は気にするな
- ・公衆トイレの汚さ
- ・道路は駐車場の延長で、場所を選ばず駐車する

3. 国際化のために治さねばならない病

自国の中で、社会生活を営んでいる時代は、病ではなかったが、国際社会の一員として付き合い合っていくならば、意識して治していかなければならない病。

(1) 臨機応変のコリアンタイム

・韓国人は、約束した時間を守らない。これをコリアンタイムという批判がある。これは、韓国人が時間にルーズなのではなく、利己主義や権威主義の影響が大きくあり、権威・権力のある人の参加する会議は、正確に始まり、権威のある人の参加しない会議は遅れたり、キャンセルしたりする。

・韓国人は「約束時間を守らないし、遅れてきても「すみません」の一言もない」という批判があるが、韓国人には「時間を守る」ということよりも「会う」ということを守れば問題ないという考え方がある。

(2) 高速道路上での危ないパフォーマンス

- ・渋滞した高速道路上での物売り
- ・地下鉄車内での日用品売り
- ・公衆の面前でのパフォーマンス

(3) 頭才教育という病

筆者は、人材を「より多くの知識を記憶し、かつ、限られた時間内でより多くの正しい答えを見つけ出す能力を持った人」を「頭才」、「個性や創造性を伸ばし、かつ人間性も豊かな人材」を「創才」と呼んでいるが、韓国の教育方針・制度をはじめ社会全体が「頭才偏重」になっており、「頭才」の育成に膨大な教育費用とエネルギーを投入している。

これからは、協調性、独創性、自立性、他人への思いやりといった人間としての基本的な精神を身につけた「創才」の育成に転換すべきである。

以上